

Genius English Course I・II

生徒を引きつける教材の魅力



山賀淑雄

1. 教科書 *Genius* のおもしろさ

Genius には多種多様な教材が盛り込まれている。新しい発見をもたらすもの、読む人の心を打つもの、人生について考えさせてくれるものなど、題材は実に豊富である。単なる読み物としてではなく、コミュニケーションの題材として、そして生徒に新しい視点を与え深い洞察を促す題材として活用していきたい。ここではまず I、II の教科書から 2 つずつお薦めの教材を紹介したい。

2. *Genius I* のお薦め教材

〈Lesson 5〉 Blowing in the Wind

広島への原爆投下をもたらした戦争の悲惨さ、痛ましさ、主人公ルミの両親への思いを通じて胸を突き刺すように伝わってくる内容である。教材の中に戦争の直接的な戦闘シーンが現われるわけでない。しかしだからこそ、ルミという少女を通して静かな話の展開の中に、いっそう戦争の悲惨さと少女の哀しみが読む者の心を打つのである。

3 歳の女の子ルミは、第二次世界大戦の終り近くに両親とともに瀬戸内海の豊島に住んでいた。1945 年 8 月 5 日、両親は親戚を訪ねるために広島へ行くが、翌日、広島へ原爆が投下される。両親は一晩泊まったら戻ると言ったのに、何日経っても戻らない。1 週間後、叔父がルミを連れて広島へ行き 2 人は両親を捜し回ったが、見つからなかった。島へ戻ったルミは来る日も来る日も港で両親の帰りを待つ。「お母さんとお父さんは一晩しか泊まらないと言っていたのに」とつぶやきなが

ら。ルミは髪につけた母の作ってくれた黄色いリボンを風になびかせ、毎日遠く海を見つめ、夕方、叔父が迎えに来るまで港から一歩も動こうとしなかった。ある日、ルミは黄色いリボンの代わりに新しい帽子をかぶっていた。被爆のため、髪の毛のほとんどが抜け落ちてしまったのだ。ルミはリボンを手に握り目には涙を浮かべ、再び遠く海を見つめる。ある日、筆者が港に行くときルミの姿がなかった。ルミは食事もとれずかなり容態が悪くなっている様子だった。唇や皮膚は乾燥し、歯は出血で赤くなっていた。そんなルミに、筆者は赤いリボンを作ってやる。しかしその 2 日後、ルミは手に黄色と赤のリボンを持ったまま亡くなる。

この課では両親の安否を知らずひたすら帰りを待つルミの不安・寂しさ、それを見守る叔父の心遣い、体調が悪化するルミの姿から伝わる戦争の悲惨さや愚かさを読み取らせたい。授業ではワークシートを用意し、各セクションごとにルミ、叔父、筆者の行動を表に簡潔にまとめる作業を通して内容理解を図らせるとよい。そして教科書の Comprehension & Communication にある、亡くなったルミに手紙を書くような作業を行い、ペアでお互いに読む練習をした後で、最後に何人かの生徒に全体の前で発表させるとよいだろう。またセクション 3～5 では、登場人物になったつもりで気持ちを込めて音読させ、ペアでの練習後、発表させることもできる。

〈Lesson 11〉 I Will Be There for You

不治の病にかかった筆者が、マラソンに挑戦す

るという経験を通して「勝つ」ということの意味を私たちに問いかける題材である。人生において真に勝つということはどういうことなのかを、2人のランナーの姿を通して読者に語りかけている。また夢を抱き困難を克服していくことの大切さや、友情を築いていくことの素晴らしさもこの作品から読み取れる。日頃、目先の結果に目を奪われがちな私たちに、別の視点から新鮮な感動をもたらしてくれる題材であるといえよう。

筆者の女性は多発性硬化症という原因不明の病にかかり、スポーツ活動はできないとあきらめていた。しかし、そんな自分自身の姿に怒りを覚え始めた筆者は、何か目標を立ててそれに向かって行動する必要があると考え、1988年、ニューヨーク・シティ・マラソンの挑戦を決意する。筆者は20時間近くかけてそのマラソンを走り抜く。その5年後、あるパーティーで筆者は1988年の大会で9回目の優勝を果たしたマラソン選手グレータ・ヴァイツに出会う。筆者は数日後に6回目のマラソンを控えていたが、ゴールには誰も彼女のタイムを記録する人がいないことを知ったグレータは、自分がその場に立ち会うことを申し出る。マラソン当日、ゴールに近づく筆者をテープの後ろでグレータが待つ。ゴールの瞬間グレータが自ら用意したメダルをかけ、2人は大きな感動に包まれて互いの腕に倒れこむ。その後2人は一緒に学校を訪問し、勝つということについて自らの体験を話すようになった。2人は語る。「レースは速く強い人たちのためだけにあるのではなく、走り続ける人たちのためにもあるのだ」。

この教材では逆境を乗り越え物事を成し遂げる力強い生き方、人生における勝利の本当の意味、夢を抱き追い続けて生きる素晴らしさなどを生徒に理解させたい。授業では4つのセクションをこの題材の起承転結とし、2人の抱いた気持ちと行動を要約した英文を表にして用意するとよい。そして穴埋め形式で語句を埋めることにより内容の展開を理解させることができる。また発展活動で

は、第1回目と第6回目のマラソンについて、記者になったつもりで筆者に対する質問を用意させ、ペアワークでお互いに筆者・記者役になり質問をし合わせてみるとよいだろう。

3. *Genius II* のお薦め教材

〈Lesson 4〉 The People's Bank

発展途上国バングラデシュで貧困生活を送る人々を援助し経済的自立を促すために、グラミン銀行を設立したモハマド・ユヌス氏のスピーチをもとにした題材である。この教材を読むとバングラデシュの女性に対する賃金の低さにまず驚かされる。そしてこの貧困が、実は人々の偏見と社会制度によって生み出されている事実、この問題に対する認識を新たにすることはできる。

大学で経済学を教えるユヌス氏は、ある日、大学の近くの村で竹細工の美しい椅子を作る女性と出会った。彼女の賃金は1日わずか2セント、しかも材料の竹は20セントで借りていた。調べてみると、村でそうしたお金を必要としている人は42人で総額わずか27ドル。この状況をなんとかできないかと考えた彼は、銀行に村人への融資を相談するが、貧乏人は信用できないと言われて断られてしまう。そこでユヌス氏が保証人となりお金を借りることにする。村人は驚くほどにきちんとお金を返し続けるが、それでも銀行は彼らを信用することができない。そこでユヌス氏はついに自ら銀行設立を思い立ち、グラミン銀行を開設した。そして今日では210万人の人々に融資するほどに成長している。バングラデシュの女性はお金を借りると感動のあまり涙を流し、自分を信用した人を裏切らないために一生懸命働き、ローンが終わる頃には自立し家族を支えることができる全くの別人になっているのだ。貧困は貧しい人々が生み出すものではなく、社会制度によってもたらされるものであり、すべての社会がすべての人間の尊厳を守ることが必要であるとユヌス氏は説く。

授業では、貧困を克服するためにユヌス教授が

単なる資金援助という形をあえて取らなかったことに注目させたい。そして真の経済的自立とは何かを生徒に考えさせ、意見を述べ合うようにさせるとよいだろう。また同時に、ユヌス教授の心の葛藤にも目を向けさせ、発展途上国の抱える問題の根本的な解決にはどうしたらよいかを考えさせてもよいだろう。このような活動を行うためには、各セクションごとに上記の内容に関する英語の質問を用意しておく必要がある。できればワークシートを用意し、この課が終了した時にそれぞれの質問の答えをまとめることにより、1つのエッセイが完成するような活動を組みたい。そしてこの一人一人の作品を教室に掲示し、他の生徒の考えを共有することができれば、より深い理解が得られるはずである。

〈Lesson 8〉 Shackleton

アーネスト・シャクルトンという探検家の名前を知っている人はどれくらいいるだろうか。探検家の物語というと、困難を乗り越えて成功を成し遂げた話が多い。しかしこの物語はそのような美談ではない。読み進めていくうちに、迫りくる危険と死の恐怖がひしひしと伝わり、この探検家の想像を絶する困難な中での勇気ある決断とその行動力に驚嘆させられてしまうのである。

探検家アーネスト・シャクルトンは1914年12月5日、南極点を目指してサウスジョージア島を発する。しかし彼らが乗った船エンデュランス号は1,000マイルの航海の後、氷に行く手を阻まれ、8か月の間、氷の海に閉じ込められてしまった。さらに船は氷の圧力によりつぶされ、乗組員は食糧と備蓄品を持って船を去り、氷上にキャンプを張り暖かくなって氷が割れるのを待った。1916年1月、食糧が底を尽き始め、そり用の犬を殺さなければならなくなる。そして4月、キャンプをしていた氷がようやく割れ、乗組員は救命ボートで荒れ狂う海にこぎ出し、凍傷などに苦しみながらも、エレファント島へ上陸を果たす。南極

探検へと出航して以来497日後のことだった。しかしそこは氷に覆われた小さな無人島だった。生き延びる方法は2つしかない。キャンプ生活でもう一冬過ごすか、あるいは一番近い有人の島、サウスジョージア島までさらに航海し助けを求めるか。後者は風速80マイルの中を800マイル航海するという自殺的行為を意味していたが、無人島での越冬ではきっと死者が出ると危ぶんだシャクルトンは後者の道を選択する。彼は5人の男を選び船出した。波の高さ18m、風速64kmの中、死と隣り合わせの16日間の航海の末、ついに島へ上陸。しかし援助を得るにはさらに22マイル歩いて氷の山を越えなければならなかった。地図も寝袋も食糧もない決死の山越えの末、シャクルトンは今にも倒れそうな姿で捕鯨キャンプ地になどり着く。そして8月30日にはエレファント島の乗組員も救助される。彼らは決して南極大陸を横断することにはなかった。しかし彼らは全員生き延び、過酷な状況の中、1人の死者も出さなかった。この事実こそ探検家シャクルトンを偉大なリーダー、そしてヒーローにしているのである。

この題材のあらすじを理解する手助けとして、まず事柄を時系列にまとめた年表を用意し、時間の経過とともにどのようなことが起きたかを、空欄を埋めさせながら確認していくとよいだろう。また一通り読み終えた後で、出来事の書かれた文を順不同に並べ、物語の展開に合うように並べ替えさせる活動もできる。また発展的活動としてシャクルトンの下した決断に注目させ、なぜ彼がそのような決断をしたかを客観的な事実も含め、以下のように英語でまとめさせてもよいだろう。

Shackleton の下した決断	なぜそのような決断を下したのか(客観的事実)
October 27, 1915 They left their ship.	Their ship was crushed by the ice.
January 14, 1916 They shot their sled dogs.	Food supplies kept decreasing.

表を完成した後でペアになり、交代でシャクルトン役になり、お互いに What did you decide to do on October 27, 1915? や Why did you decide to do that? などの質問をして相手の答えを確認することもできるだろう。

4. 他にも注目したい教材

Genius には他にも注目すべき教材が多くある。まず *Genius I* では〈Lesson 3〉George Lucas で、映画『スター・ウォーズ』のジョージ・ルーカス監督の成功の裏にあるこれまでの困難な道のりが紹介されている。また〈Lesson 4〉Proud Panther では、ギニアの少女フィンダが3時間もかけて学校に行く背景にある、父親の少女に託す思いが語られている。伝統的な考えから脱却し学ぶことの重要性を認識し実践していく中に、「誇り高きパンサー」の姿が読み取れる。さらに〈Lesson 6〉Easy Japanese では、災害時における外国人にとっての「わかりやすい日本語」とはどういうものかを考えさせてくれる。また〈Lesson 9〉Ant Communication では、身近な存在であるアリの生態について、例えばアリはなぜ1列に歩くのかなどについて興味深く語られている。

次に *Genius II* に目を向けてみると、まず〈Lesson 2〉From Image to Meaning では、言葉のもつ3つの側面が述べられている。言葉から連想されるイメージ、共通体験や共同体から生じる固有の言葉遣い、さらに言葉が知覚や記憶に与える影響について、実験などを交えながら紹介している。〈Lesson 6〉Fighting for Green では、環境問題に対する新しい取り組みを紹介している。生態系の経済的価値の算出、世界中の植物を集めるプロジェクトなどの取り組みを紹介しながら、環境保護について私たちが何ができるかを考えさせたい。〈Lesson 9〉Sensitive Plants では、植物のもつ感受性や不思議な力について述べられている。植物に触れたり話したりすることが成長を促すことや、アカシアの木が天敵から身を守るため

に SOS 物質を出すことが科学的に説明されている。植物のもつこのような力に驚かされるに違いない。

(やまが よしお・新潟県立阿賀黎明中学校・高等学校教諭)

Genius の指導資料・副教材

◆充実した指導資料

① 教授用指導資料 [3分冊・B5判・定価8,400円]

(1) Teacher's Manual

生徒にわかりやすく教えるためのヒントや生徒の理解度を測る小テストを用意しました。

(2) 〈Q&A方式〉教科書情報資料集

本課の内容に関して生徒が疑問に思うポイントを想定し、その疑問に解答を用意しました。

(3) 評価問題集

各課に「基本編」「発展編」を用意し、「発展編」は大学入試を意識した問題を出題しています。

② 指導用 CD [4枚組・定価12,600円]

本文は slow / natural で録音しています。

③ 指導用 CD-ROM [定価7,350円]

①英単語・熟語自動問題作成ソフト ②教科書本文 ③教科書本文の原典 ④評価問題集 ⑤ Teacher's Manual 収録の小テスト

④ *Genius English Grammar Teacher's Manual*

[B5判・定価2,600円]

生徒用文法学習教材 *Genius English Grammar* の解説指導書。補足例文・問題も加えました。

◆新しい発想による生徒用副教材

① 予習・復習ノート [B5判・定価480円]

教科書準拠の学習ノート。単語・熟語・文法の定着に。

② 〈新刊〉大学入試対策問題集・音声 CD 付

[B5判・定価980円]

文法・表現、長文、リスニングの3つのパートから成る大学入試の過去問題で構成した発展学習用教材。センター入試対策としても便利です。

③ *Genius English Grammar* [A5判・定価600円]

教科書をもとにしたオリジナル文法教材。この1冊で文法は万全です。

④ 生徒用 CD [定価980円]

新出単語と教科書本文を収録。